

学級活動の研究

臼井 政之



◎ キーワード

集団と個のよさの積み重ね よさの共有化 願いの共有化

◎ 主 張

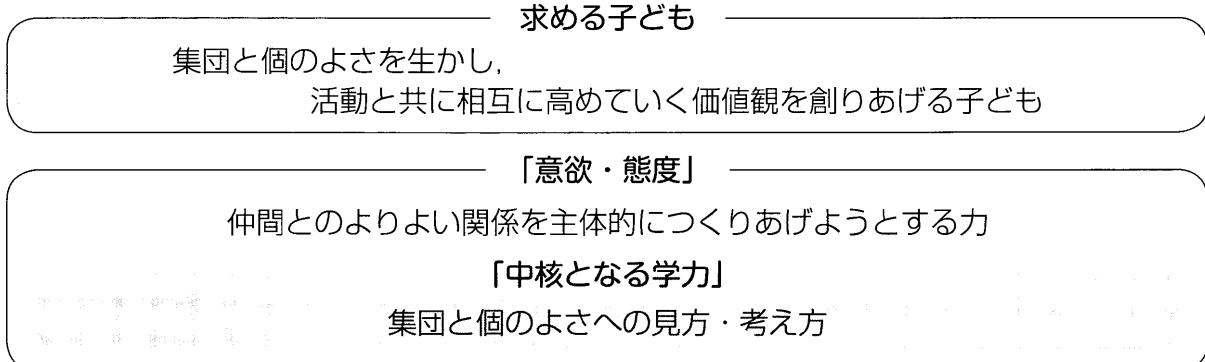
本研究では、「集団と個のよさを生かし、活動と共に相互に高めていく価値観を創りあげる子ども」を目指す。

ここでいう価値観とは、学級や学年のよさや一人一人のよさが活動の中で着実に発揮されていくことで一層伸ばされ、活動自体も充実していくというプラス思考の価値観である。このような価値観の形成に向けて、「集団と個のよさの積み重ね」に着目し、そのための働きかけとして「よさの共有化」と「願いの共有化」を重視した。

本研究では、願いの具現に向けた活動を通して、仲間のよさと自分のよさを生かしながら活動を連続させていく子どもの姿を明らかにした。

I 集団と個のよさを生かし、活動と共に相互に高めていく価値観を創りあげる学級活動

1. 学級活動で求める子ども



集団と個のよさを生かし、活動と共に相互に高めていく価値観とは、学級や学年のよさや一人一人のよさが活動の中で着実に發揮されていくことで一層伸ばされ、よさが積み重ねられていくことで、活動自体も充実していくというプラス思考の価値観である。このような価値観を形成した子どもは、学級内で起こる様々な問題もステップアップの契機として前向きにとらえ、学ぶ意欲を高めていく。

前研究では、自己有用感の上に立った仲間への共感的な態度に着目することで、考えのよさを積極的に理解し、互いの異なる部分も認めていこうとする子どもの姿が見られた。この姿を一層伸ばしていくために、本研究で着目したのが、「集団と個のよさの積み重ね」であり、働きかけとしての「よさの共有化」と「願いの共有化」である。

「よさの共有化」とは、活動の節目に振り返りの場を設定することで、考えのよさや成長を認め合い、満足感や達成感を共有することである。「よさの共有化」により、集団のよさと自分自身のよさのとらえが更新されていく。

「願いの共有化」とは、よさの共有化を通して次の活動への意欲が高まってきた状況で、活動のテーマや目的や価値を共有する話合いを組織し、個々の思いを集団の願いへと高めていくことである。「願いの共有化」により、自分たちの目指す姿がはっきりしてくる。また、同じ願いに基づいて話合いや活動に取り組むことで、自他の考えを重ね合わせたり生かしたりすることができ、集団や活動における自分自身の位置付けが再構成されていく。

このような学びを通して、集団と個のよさを生かし、活動と共に相互に高めていく価値観を創りあげ、学ぶ意欲を高めながら活動を連続させていく子どもの姿を期待した。

2. カリキュラム改善の視点

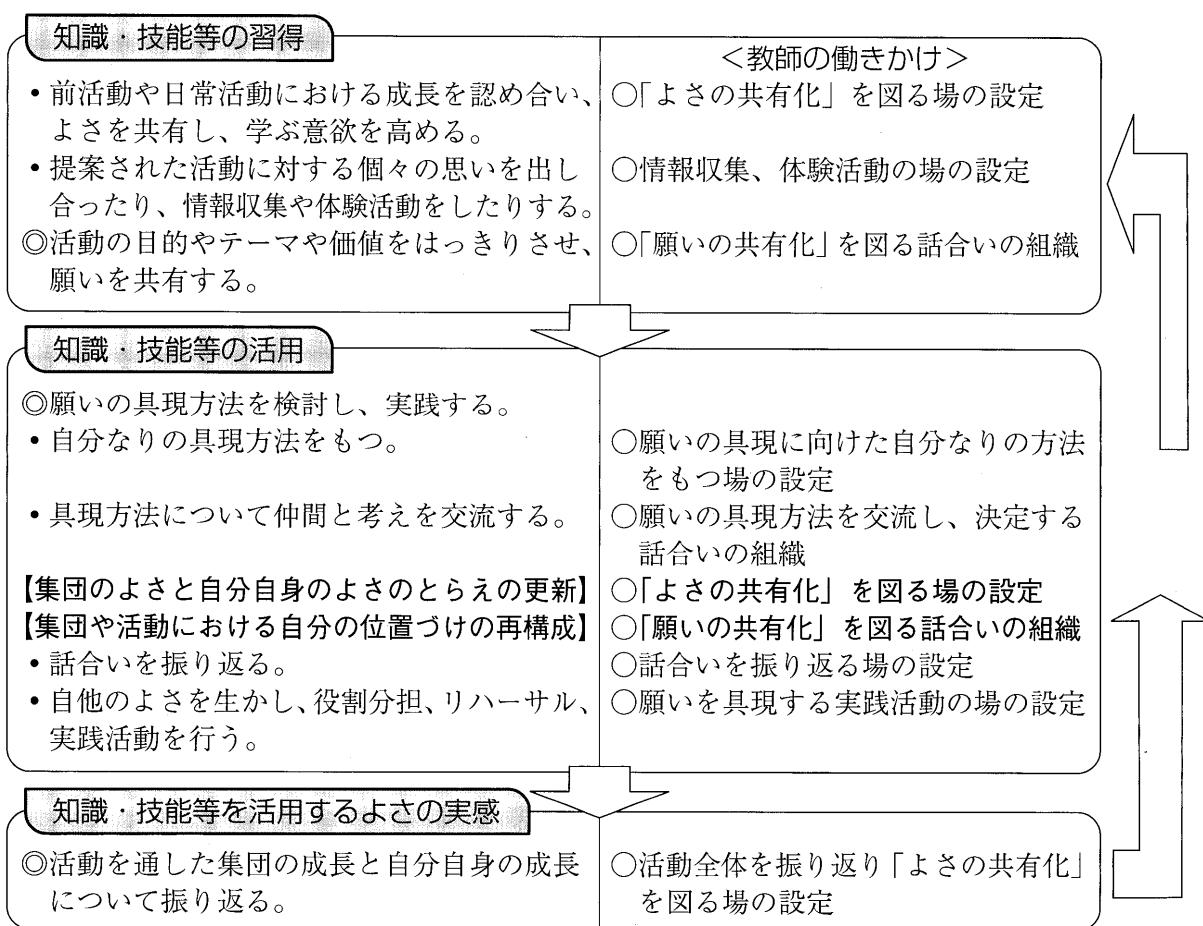
集団と個のよさを生かし、活動と共に相互に高めていく価値観は年間を通じて形成されていくものである。附属長岡小学校では、カリキュラム編成の視点として、「集団と個のよさの積み重ね」を具現するための学年に応じた年間の活動とテーマの設定を考えている。こうすることで、活動の目的が共有され、集団として向かうべきところが明確になる。例えば、第4学年では、活動テーマを「学級（学年）の宝物を増やしていくこと」とし、年間の活動を次ページの図のように構成した。

(主として学習指導要領(1)「学級や学校の生活の充実と向上に関すること」の内容に関わるもの)

月	学級（学年）の宝物を増やす活動	
4	仲良し度アップ大作戦	9 増やせ学年の宝物！
5	学級の合い言葉・シンボルをつくろう	10 4年スマイルプロジェクト…活動②
6	402オリジナル会社をつくろう 教生先生を迎える会・送る会をしよう	11 教生先生を迎える会・送る会をしよう
7	【増やせ！学級の自慢】 自指せ宝物のホームページ…活動①	12 仲良しフェスティバルに向けて全校一の出店をつくろう
		1 会社活動をリニューアルしよう
		2 生かせ！学年の協力と笑顔…活動③
		ありがとう仲良しの会を成功させよう

1学期、学級の宝物を増やそうと学級としての仲間意識を高めた子どもたちは、2学期、「学年生活の向上」という新たな視点を得ることで、学年としての仲間意識を高めると共に学級と自分自身を見つめ直す。3学期、6年生に感謝の気持ちを伝えようと学級・学年のよさを生かす中で、子どもたちは、6年生から見た4年生のよさという新たな視点を得る。このように、新たな視点を得ながら、子どもたちは、集団のよさと自分自身のよさのとらえを更新し、集団や活動における自分自身の位置付けを再構成していく。

3. 授業改善の方策



4. 評価方法

<集団と個の変容を実感できる自己評価や相互評価の工夫>

学級活動ノートや自己評価カードを活用し、子どもたちが自分自身や学級の変容を実感できる自己評価や相互評価の場を大切にする。具体的には、授業開始時の子どもたちの考えがどのように変わっていったのか、子どもたちの思考が記述に表れるよう工夫すると共に、変容のきっかけとなった仲間の発言についても記述させ、振り返ることができるようとする。

II 実践の概要

第4学年

「増やせ！学級の自慢 目指せ！宝物のホームページ」

1. 学級の宝物を共有し、仲間のよさや自分のよさを生かし、積み重ねながら活動を創りあげる学び

6月末に行われた宿泊行事「サマースクール」は4年生版の自然教室であり、子どもたちにとっての最高の思い出である。本活動は、サマースクールの思い出を学級のホームページに載せていくことを通して、学級のよさ、一人一人のよさを見直し、積み重ねていくことに価値がある。

本活動は、サマースクール以前の学級を紹介するホームページが完成したところを活動の始まりとする。互いの努力や工夫を認め合い「よさの共有化」をした子どもたちは、「ホームページに4年2組の宝物をどんどん載せていく。サマースクールの思い出を残したい。」と思いを膨らませてくる。そこで、ホームページづくりのテーマをはっきりさせ、「願いの共有化」を図る。願いの具現方法を話し合う中で、仲間や自分の考えのよさのとらえを更新し、ホームページ作成への意欲を高めていく。そして、一人一人が、よりよいホームページになるよう責任を果たし、集団への自分自身の寄与の仕方を再構成しながら活動を創りあげていく姿を期待した。

2. 活動の構想

(1) 活動の目標

サマースクールの思い出を「学級の宝物」としてホームページに載せる方法を検討し、ホームページを作成していく中で、自分と仲間の考え方のよさを生かすと、活動が充実し、学級の結びつきも強まることに気づき、自分の役割を果たしながらよりよいホームページにしていくことができる。

(2) 追求の構想（全9時間：学級活動として4時間、国語の学習として5時間）

1次 サマースクールの思い出を振り返ろう（3時間）

- ①よさを共有し、サマースクールの思い出のホームページ化という新たな思いを膨らませる。
- ②サマースクールに対する一人一人の思い出（個々の宝物）を短冊に書き、紹介し合う。
- ③ホームページづくりのテーマ「サマースクールで得た4年2組の宝物」をはっきりさせよう。
- ④ホームページづくりのテーマをはっきりさせ、願いを共有する。

2次 4年2組の宝物としてのサマースクールのホームページをつくろう（5時間）

- ⑤サマースクールで得た4年2組の宝物「1組2組の協力」「笑顔」が表れるホームページにしよう。
- ⑥4年2組の宝物というテーマを具体化するページ構成について仲間と考えを交流する。
 - ・ホームページの作成に向けた役割分担をする。（朝学習）
- ⑦⑧サマースクールの活動班ごとに協力しながら、ホームページをつくる。

3次 ホームページづくりに向けたお互いの頑張りや成長を認め合おう（1時間）

- ⑨よりよくなったホームページを見て、4年2組の協力と仲間同士の頑張りを認め合おう。
- ⑩サマースクールの宝物が追加されたホームページを見て、互いの頑張りや成長を認め合う。

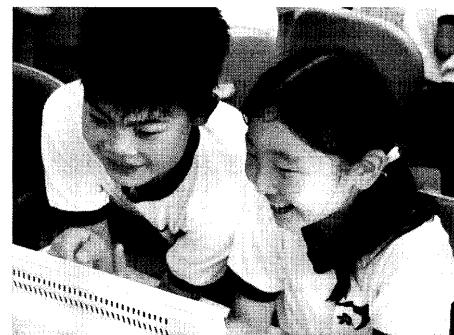
3. 授業の実際

(1) サマースクールで得た4年2組の宝物って何だろう？

発想豊かであると共に、納得できるまでじっくりと考えを練り上げようとするよさがある裕真さん。そのため、自分の考えをはっきりともつまで、発言や行動に移すことが少ない。本活動では、願いの具現に向かい、じっくりと考えながらも自分の発想を生かし、学級集団に寄与しようとする姿を期待した。

4年2組のよさを紹介するホームページが完成した。

子どもたちは、予想以上の出来に満面の笑顔を浮かべ、各班の工夫や完成に至るまでの頑張りや協力を認め合った。すると、「もっと宝物や自慢をのせていきい。」と声に出す子どもたち。「楽しかったサマースクールの思い出も載せようよ。」という意見が出されると、他の子どもたちも笑顔でこの案に賛成した。



みんなの思い：サマースクールの思い出を宝物としてホームページにのせよう。

集団としての思いをはっきりさせてきた状況で、サマースクールに対する一人一人の思い出を短冊に書き、紹介し合うことにした。裕真さんは、葉っぱのスタンプづくりでの思い出を書いた。黒板いっぱいに貼られた短冊を見て、たくさんの思い出をどのようにホームページに載せていいのか考えながら、「早くサマースクールのホームページを作りたい。」とつぶやく子どもたち。ホームページを作る目的を確かめ合うと、サマースクールで得た4年2組としての宝物をはっきりさせないと、活動を先に進めることができないことに気づいてきた。そこで、4年2組の宝物としてのサマースクールの意味を振り返り、願いを共有する話し合いを行った。

僕も宝物は「協力」だと思います。
河川体験活動で、転びそうになったときに手をつないで助け合っていたからです。(光一さん)



子どもたちからは、光一さんのように、サマースクールで得た4年2組の宝物は「協力」であるという意見が続いた。愛子さんの発言で、そこに「1組2組の協力」というキーワードが加わった。そして、直美さんの発言で、「笑顔」というキーワードが加わった。彼女たちの発言に多くの子どもたちが賛同し、「1組2組の協力」と「笑顔」をサマースクールで得た4年2組の宝物として認め合った。この話し合いの結果、子どもたちの願いは次のように共有された。

私も河川体験活動のことなんですけど、1組2組が同じ班になっているじゃないですか。1組2組関係なく、手をつないで協力できたら宝物はやっぱり「協力」だと思います。(愛子さん)



みんなとはちょっと違うんですけど、昼食や夕食で、みんなの顔が笑顔になって、笑いが増えたことが宝物だと思います。(直美さん)



みんなの願い：◎サマースクールで得た4年2組の宝物「1組2組の協力」「笑顔」が表れるホームページにしよう。

(2) 4年2組の宝物「1組2組の協力」「笑顔」が表れるホームページにしていくためには 裕真さんは、願いを共有する話合いの中で、自分の考えをなかなか発言できずにいた。しかし、司会に発言を促されると、「ポスター作りで絵を描いたり、字を書いたり、みんなで分担していいポスターができたことが宝物だと思います。」とノートに書いたことを述べた。発言にある「分担」という言葉の中に、「1組2組の協力」というキーワードへの意識が感じられた。4年2組の宝物というテーマについて、自分の思い出と重ね合わせて考えようとしていたのである。

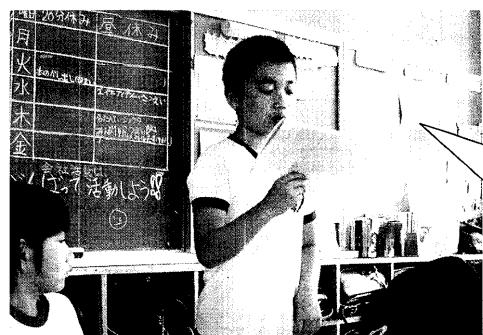
そこで、4年2組の宝物というテーマを具体化するためのページ構成について、一人一人が考え、イメージをもつために、仲間と考えを交流する話合いを行うことにした。裕真さんは、自分の目で見たものを絵で表すことが得意である。言葉で表現するだけでなく絵や図にかけて説明することで、自分のよさを發揮できると考え、ホームページのイメージ図を描くための用紙を用意した。

話し合う中身を明確にするために、「この前の話合いで宝物として決まった『1組2組の協力』と『笑顔』がホームページの中に表れるようにしたいですよね。」と教師が問いかけると、深くうなずいた裕真さん。しばらくの間考えこんだ後、みんなの願いとつなげ、「成功したことや1組2組が一緒に協力して、達成できたことを表したい。」と自分なりの願いをノートに書いた。

河川体験活動などで、協力しているところは、『網を貸してあげよう』とか吹き出しを入れて強調すると、協力という宝物が表れていいと思います。(直美さん)



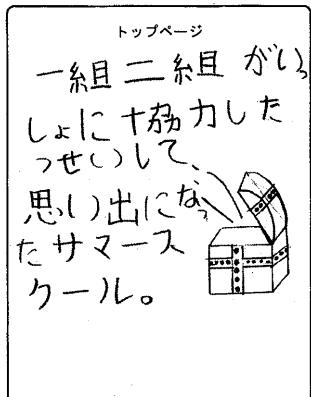
みんなが協力し合って、その成果が笑顔になったんだから、その協力の積み重ねを表していくといいと思います。それと、どういう工夫をしたら、スマイルになっていったのかを入れるといいと思います。(秀一さん)



<宝箱を描く裕真さん>

話合いが始まるとき、裕真さんは、どの意見も真剣に聞いていた。そして、直美さんの発言とそれに続いた秀一さんの発言に対して、「いいと思います。」と力強く反応した。この2人の発言は、それまでの発言とは異なり、宝物として位置付けた「協力」と「笑顔」をどのようにホームページに載せるかという方法が具体的であった。そこで、教師がこの2つの発言をとりあげ、「直美さん、秀一さんは宝物に対して詳しくしていこうと言っているよね。」と問い合わせた。

ホームページの大まかなイメージ図



<裕真さんの描いた宝箱>

すると、イメージ図を描く用紙を手に取り、トップページの場所に「宝箱」を描き始めた裕真さん。自分のイメージに合う宝箱になるまで、何度も何度も描き直していった。裕真さんは、「協力」と「笑顔」を工夫して伝えようとする仲間のよさを理解し、ホームページを見る人に伝わりやすくなるように、「宝箱」のイラストという自分の発想を生かし始めた。

その後の話合いで、同じ班の泉美さんが、「班ごとの話し合いで、『感動した』とか『もう一回サマースクールに行ってみたい』とかステキな言葉が出てきたので、それを載せていったらいいと思う。」と発言すると、裕真さんは、3回大きくうなづいた。

そして、泉美さんの発言を受け、次のように発言した。

ぼくは、1組と2組が一緒に協力したり、達成したりできたので、トップページに協力したことなどをまとめた題を書いた方がいいと思います。(裕真さん)

裕真さんは、協力に関する言葉の大切さについて述べることができた。しかし、「宝箱」を描いたことについては、みんなに伝えることができなかつた。

(3) 4年2組の宝物が表れるトップページを考えよう

裕真さんのよさが前面に表れた「宝箱」の絵であるが、全体の前ではまだ紹介されていなかった。また、裕真さんの他にもトップページのイメージ図を描いた子どもが10人以上いた。そこで、それぞれのよい点を組み合わせ、4年2組の宝物が表れるトップページにするために話し合った。すると、様々な意見の中に裕真さんのイメージ図を評価する声がたくさんあった。



裕真さんがいいと思います。宝物を宝箱で表しているのがいいです。一目見て宝物だとわかります。(智也さん)



宝箱のふたが開いていて、そこから思い出が出ているところがいいです。(愛子さん)

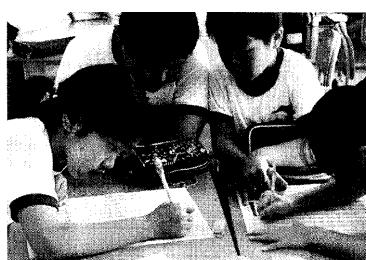


裕真さんは、宝箱の中から光が出ているのがいいと思います。(陽一さん)



裕真さんと泉美さんのアイディアを組み合わせて、写真が飛び出すびっくり箱のような感じにするといいと思います。(秀一さん)

「宝箱の絵、すごいね。」と何人の友達から声をかけられ、裕真さんは恥ずかしそうに笑み



<ページ構成を相談する

裕真さん>

を浮かべてうなづいた。集団のよさと自分のよさのとらえを更新している姿であると評価する。その後の話合いで、トップページ以下は、活動班ごとに作成することに決まった。子どもたちは、「1組2組の協力」と「笑顔」をページにどう反映させていくのか話し合った。裕真さんは、「具合の悪くなった1組の友だちと肩を組んで歩いたことを1組2組の協力として載せよう。」と班の仲間にたくさんのアイディアを提供した。

(4) できたぞ！402の宝物が表れるホームページ



<裕真さんの描いたミニミニ図鑑>

<活動後の裕真さんの振り返り>

ホームページづくりを通して、402は友だちと協力する力が増えた。それに、協力したことによって、友だちとの仲が深まった。僕が活躍したことは、「宝箱」を描いたことだ。ホームページは宝物だから、その「宝箱」が活躍した。

生かすと、活動が充実することに気づき、自分自身の位置付けを再構成することで、仲間との結びつきを強めていったと評価する。

III 成果と課題

<成果1>活動の目的やテーマや価値をはっきりさせるための「願いの共有化」によって、自分のよさの自覚を促すことができた。

同じ願いのもとの話合いでは、互いの考えのよさを認める意見が多く、考えに自信のない子どもも進んで発表する。そして、再びその考えが認められ、「よさの積み重ね」が行われる。裕真さんは、なかなか自分の考えをもてずにいたが、仲間の考えのよさを認めていくうちに自分の考えをはっきりさせていった。そして、「宝箱」という表現方法を発見し、自分のよさを学級のために生かすことができた。

<成果2>発表方法の工夫により、学級集団における個々の考え方のよさを生かすことができた。

4年2組の宝物という視点を具体化するため、ホームページのイメージ図を描く用紙を用意したことが、裕真さんの中に「宝物」→「宝箱」という発想を生む強いきっかけになったと考える。言葉のやりとりだけをする話合いの形式にとらわれず、多様な表現方法を話合いの中に取り入れていくことで、思考の幅がさらに広がっていくと考える。

<課題>集団へ寄与することの実感を生む自己評価・相互評価の方法を開発する必要がある。

子どもたちが、集団と活動における自分自身の位置付けを再構成していくためには、自分が集団のために役に立っているという実感をもたせることが大切である。自己評価カードを活用し、自己的達成度が集団としての願いの達成度に反映するような教室掲示を考慮するなど、子どもたちが集団への貢献を目で確認できるような工夫が必要である。

<主な参考文献>

杉田洋 1997 「子どもがもえる活動づくり 中学年」 明治図書

パソコンを使ってのホームページ作りが始まった。裕真さんは再び発想を生かし、河川体験で捕まえた生き物を図鑑風に表した。また、友だちから頼まれ、他の班のページ用に「宝箱」を描いた。

ホームページが完成すると、裕真さんは、「宝箱」が描かれたトップページを嬉しそうに見ていた。「1組2組の協力」と「笑顔」を表すという願いを具現させたのである。活動前は、自分の発想を学級や仲間のためにうまく生かすことができなかつた裕真さん。この活動を通して、仲間や自分の考えのよさを